

# くまもと・健やか・長寿 プラン（概要図）

＜熊本県の基本データ（全国順位）＞  
 平均寿命(H17) 男79.2(10位) 女86.5(3位)  
 高齢者数 456,897人  
 高齢化率 25.1%(H20)(16位:H19年)  
 要介護認定率 17.8%(H20)(14位:H19年)  
 認知症高齢者数 44,000人(H19推計)  
 高齢者のみ世帯率 20.3%(H17)

## ＜理 念＞

- 高齢者の尊厳の尊重
- 高齢者の自立支援と社会参加・参画の推進
- 利用者本位の視点の重視
- 地域ケアの実現

## ＜計画の目指す姿＞

「“高齢者がいきいきと輝き、  
長寿を楽しめる”くまもと」

すべての高齢者が、  
 ○暮らしたいと思う地域・場所で  
 ○快適かつ安心・安全に  
 ○生きがいを持ちながら  
 自立して長寿を全うすることの  
 できる熊本を目指します。

## ＜現状と課題＞

・団塊の世代が本格的に高齢者の仲間入りする中で社会参加活動や就労への関心が高い  
 ・高齢者の知識や経験、技能を活かす場を積極的に提供することが必要

・脳卒中などが原因で中重度の要介護認定者が増加  
 ・健康づくりや介護予防が一層重要

・高齢者の独居、夫婦のみ世帯が増加  
 ・コミュニティ機能の低下  
 ・孤立死などの問題が顕在化

・認知症高齢者が増加  
 ・認知症に対する理解や対応が不十分

・介護・福祉サービスの基盤整備が引き続き必要  
 ・在宅重度や認知症等で施設・居住系サービスの利用が早急に必要の方は約2,200人  
 ・介護の人材不足の状況がある

### 【主要なサービス給付の状況】

全国を1とした場合の熊本県における第1号被保険者1人あたりの介護サービスの給付費

・訪問サービス	: 0.82
・通所サービス	: 1.26
・短期入所サービス	: 0.75
・地域密着型サービス (グループホーム等)	: 0.98
・施設サービス	: 1.30

・サービスの質の向上が必要  
 ・サービス事業者の適正な運営の確保が一層必要

・療養病床の再編成に伴い、介護療養型医療施設は廃止となるが、介護療養型老人保健施設への転換は1件のみ

・介護と医療のサービス連携が不十分

## ＜8つの対応策＞

- ①高齢者の健康づくりと社会参加の支援  
 ・(財)熊本さわやか長寿財団や老人クラブの活動推進
- ②要支援・要介護状態の重度化予防  
 ・介護予防や健康づくりの推進
- ③孤立化した(引きこもり)高齢者の見守りネットワークの構築  
 ・見守りや虐待防止等のネットワークを全市町村に設置
- ④地域全体で認知症高齢者とその家族を支援する体制の整備  
 ・認知症疾患医療センターを8ヶ所設置  
 ・認知症サポーターを認知症の方の数以上に養成
- ⑤必要なサービスが速やかに利用できる基盤の整備  
 ・3年間で3,412人分の施設等を整備  
 地域密着型サービス : 2,485  
 広域型施設 : 927  
 ・中山間地等の居宅介護サービス事業所の立上げ支援
- ⑥介護サービスの質の確保と向上  
 ・「介護サービス情報の公表」等の普及  
 ・介護サービス事業者の指導・支援等  
 ・地域密着型サービスに係る市町村支援
- ⑦療養病床の円滑な転換  
 ・介護療養型老人保健施設等への円滑な転換の支援
- ⑧地域包括ケアの実現  
 ・どこにいても介護と医療のサービスが切れ目なく受けられる仕組みづくり

## ＜3つのプロジェクト＞

元気30歳推進プロジェクト

認知症・あったか・よからいふプロジェクト

切れ目のない介護と医療プロジェクト

対応

実現

負担と給付のバランス確保

地域介護・福祉力の向上

## 【主な目標】

- 80歳になっても社会参加活動等に取り組んでいるなど「健やか長寿」の人を増やす
- 要介護状態や認知症の症状、家族の状況に応じて適切なサービスが受けられるようにする  
 (在宅重度等の方が、出来るだけ早く施設や居住系のサービスが受けられるようにする)
- 認知症になってもできるだけ住み慣れた地域で安心して暮らせるようにする(認知症対策・地域ケアの「熊本モデル」の創出)
- 一層、高齢者本人の尊厳が尊重された質の高いケアがなされるようにする
- 病院、施設、自宅のどこであっても介護や医療のサービスを切れ目なく利用できるようにする